

# 1. 評価結果概要表

作成日 平成20年2月11日

## 【評価実施概要】

事業所番号	4271600720
法人名	社会福祉法人五島会
事業所名	グループホーム三井楽
所在地 (電話番号)	長崎県五島市三井楽町浜ノ畔3185 (電話) 0959-84-3811

評価機関名	SEO (株)福祉サービス評価機構		
所在地	福岡市博多区博多駅南4-2-10 南近代ビル5F		
訪問調査日	平成20年2月5日	評価確定日	平成20年3月5日

## 【情報提供票より】(19年11月1日事業所記入)

### (1) 組織概要

開設年月日	A棟 平成16年2月1日	B棟 平成16年6月1日
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計 18 人
職員数	12人	常勤 12人, 非常勤 0人, 常勤換算 12人

### (2) 建物概要

建物形態	併設/ <u>単独</u>	<u>新築</u> /改築
建物構造	木造平屋造り	
	1階建ての	1階 ~ 1階部分

### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	3,000 円	その他の経費(月額)	円
敷金	有( 円)	<u>無</u>	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有( 円)	有りの場合 償却の有無	有/無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり	850 円	

### (4) 利用者の概要(19月11日現在)

利用者人数	18名	男性	6名	女性	12名
要介護1	5名	要介護2	1名		
要介護3	10名	要介護4	2名		
要介護5	名	要支援2	名		
年齢	平均 歳	最低 歳	最高 歳		

### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	三井楽町立診療所、米山歯科
---------	---------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

五島の自然な環境の中にホームはあり、庭から海を眺めることができる。玄関や食卓に、季節の花や木の実を飾り、ご利用者と共同で作成した作品が壁に飾られている。海風が吹いてくるホーム内は掃除も行き届いており、清潔感にあふれている。職員間のチームワークもとれており、ホーム全体が明るい。ご利用者の方も、お料理の下ごしらえや茶碗拭き、洗濯物たたみなど、日常生活の中で役割を持って生活されている。また、地元の方が多く、買い物やドライブの時には、地域の方との会話が弾むため、外出の回数も増やしていきたいと考えている。意思疎通が困難なご利用者で、1日中、歩き続ける方がおられたが、職員もずっと歩くことに同行した。その中で、ご本人の望みが“散歩”であると捉えることができ、その後も職員は諦めずに同行を続けた。その結果、現在は安心して表情になり、落ち着いた生活をされている。ご家族にも、ご本人の生活歴や生活習慣をお聞きし、ご本人主体の暮らしができる支援を続けている。法人本部の支援も得られ、2ヶ月に1度、職員向けの研修会を続けており、母体施設の管理栄養士や理学療法士などとの連携も図れている。組織の強さも発揮できているホームである。

## 【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	<p><b>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</b></p> <p>昨年度の外部評価後、全職員で検討し改善計画書を作成した。課題を明らかにして改善に努めてきた。「個別の栄養摂取状況の把握」に関しては、19年秋頃から、母体施設の管理栄養士に1ヶ月に1回、献立のチェックをしてもらい、毎月の献立表に、手書きで評価及びアドバイスを記入してもらえるようになった。また、ご利用者が入居時にも、栄養面の話し合いをおこない、今後の食事について個別にアドバイスをもらうようになった。母体法人とも連携を取り、改善に向けた前向きな取り組みを続けている。</p>
	<p><b>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</b></p> <p>管理者は長崎市内でおこなわれた評価事業の説明会に参加して勉強をしてきた。管理者より、全職員に評価の意義を説明し、職員各自が自己評価をおこなった。新しい項目になり、解釈が難しいところも多かったが、今回の自己評価を通して“家庭的”と言う視点から、さらに“地域の中で”と言う視点に膨らんできていることを全員で認識できた。最終的に管理者がまとめ、法人本部にも報告した。</p>
重点項目②	<p><b>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</b></p> <p>運営推進会議は、ご利用者、ご家族、老人会長、民生委員、消防団長、三井楽支所の福祉課の方などが参加していただき、意見交換をおこなっている。参加メンバーの方から「地域行事(産品祭りやバザー、文化祭など)に参加して、作品なども出品してみてもどうだろうか」と意見をいただき、さっそくご利用者と一緒手作りした作品や赤飯などを出品した。地域の方にも好評で、会議が良い意見交換の場になってきている。</p>
重点項目③	<p><b>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</b></p> <p>本部が中心となり、年に2回、家族アンケートを実施している。アンケートの結果のみでなく、他ホームのご家族からいただいた意見も、各ホームにも知らされるシステムになっており、内容がクレームの場合は、同じことが起きないように職員同士で話し合いをしている。また、家族の方が面会時や電話の時に、職員は少しでも話しやすい雰囲気心がけ、「ご意見がないかどうか」意識して声かけをしている。ご家族からは「元気になった」「家では、ホームでしているようなことはできない」などの意見をいただいている。</p>
重点項目④	<p><b>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</b></p> <p>地域のお祭り、文化祭、地域の清掃活動、バザーなどにも積極的に参加している。バザーに出すためのお料理(牡丹餅、スイートポテト、赤飯、煮豆)を、ご利用者の協力もいただき手作りしている。職員は徹夜になることもあるが、翌日は、ご利用者が売り子さんに進んで、完売することができた。地域の方からも好評だった。現在、念願だった子供たちとの交流が進んでいる。小学校の方から学校行事の案内が届き、ご利用者と参加する予定にしている。また、現在、交流をしている老人会と合わせて、地元の別の老人会の方とも交流を深めていきたいと考えている。</p>

## 2. 評価結果(詳細)

(  部分は重点項目です )

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
<b>1. 理念と共有</b>					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	平成16年、ホームを開設する時に、職員全員で話し合って理念を作り上げた。1つのユニットは「利用者の1日を大切に家庭的環境の中で日常生活が送れるよう支援する」。他方のユニットは「笑顔を忘れず思いやりの心で接する」というユニット個別の理念を作っている。毎年3月頃には、職員で意見を出し合い、次年度の介護目標も作成している。運営方針の中には、「～住み慣れた地域でのあたり前の暮らし・・・地域住民としての役割を持った生活が維持できるよう・・・」という表現が盛り込まれている。	○	今回の自己評価をおこなっていく中で、職員の方からも、今後、理念の中に“地域の中で暮らす”と言う視点を盛り込んでいきたいという意見が聞かれた。地域の中で、地域の一員としての暮らしは実践できているので、今後、より多くの方にホームの理念を理解いただくためにも、「地域の方とともにその人の馴染みのある場所での生活を大切にする」という思いを、職員全員で理念の中に表現していかれることを期待していきたい。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念と合わせて、介護目標を職員全員で作成し、毎日の申し送りの中で理念の唱和をおこなうことで理念の共有を続けている。ミーティングの際は、理念に通じる話を職員間で話し合っており、地域の行事に参加する前などは、理念の言葉“笑顔を忘れず・・・”と言う部分を職員同士で再確認している。新人職員には、入職時に理念の説明をし共有ができるように努め、その後もケアの現場で伝え続けている。職員は、常に笑顔を意識し、ご利用者が1日1日を大切に過ごせるよう日々実践を続けている。		
<b>2. 地域との支えあい</b>					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域のお祭り、文化祭、地域の清掃活動、バザーなどにも積極的に参加している。バザーに出すためのお料理(牡丹餅、スイートポテト、赤飯、煮豆)を、ご利用者の協力もいただき手作りしている。職員は徹夜になることもあるが、翌日は、ご利用者が売り子さんになり完売した。地域の方からも好評だった。自治会に加入し、回覧板等も回ってきている。近隣の方からお野菜をいただくなど地域の一員として交流を続けている。	○	念願だった子供たちとの交流が進んできている。小学校の方から、学校行事の案内が届き、ご利用者と参加する予定にしている。また、現在、交流をしている老人会と合わせて、地元の別の老人会の方とも交流を深めていきたいと考えている。ご利用者が参加できる場、ご利用者が主人公になれる場を作っていくことで、地域の方々との触れ合いの場が増えていくことを期待していきたい。
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	運営者も評価の意義を理解しており、管理者は長崎市内でおこなわれた評価事業の説明会に参加して勉強してきた。管理者より、全職員に評価の意義を説明し、職員各自が自己評価をおこなった。今回の自己評価を通して“家庭的”と言う視点から、さらに“地域の中で”と言う視点に膨らんでいくことを認識できた。最終的に管理者がまとめ、法人本部にも報告した。また、昨年度の外部評価後、全職員で検討しながら改善計画書を作成した。課題を明らかにして改善に努めてきた。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は、ご利用者、ご家族、老人会長、民生委員、消防団長、三井楽支所の福祉課の方などが参加してくださり、意見交換をおこなっている。参加メンバーの方から「地域行事(産品祭りやバザー、文化祭など)に参加して、作品なども出品してみてもどうだろうか」と意見をいただき、さっそくご利用者と一緒に行った作品や赤飯などを出品した。地域の方にも好評だった。会議が、良い意見交換の場になってきている。	○	良い意見交換ができてきており、貴重なご意見もいただけてきている。その時その時のご意見を正確に残しておくためにも、会議録に、参加者名、発言者、質問に対する回答の記入なども記載してみてもいいかであろうか。今後の議事録作成にも期待していきたい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	主に管理者が支所を訪問している。介護保険の申請や、障害者手帳の件でも訪問することがあり、窓口の担当の方とは顔見知りになっている。ホーム便りができた時は、各ユニットの管理者が、毎月交互に支所に便りを持参し、ホームの状況も報告している。わからないことがあり相談をした時も、支所の担当の方が気軽に相談に応じていただいている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	ご家族の面会時、職員が口頭で日々の暮らしぶりを報告している。また、毎月、写真を載せたホーム便りを作成するとともに、病院受診の結果や暮らしぶりを個別に手書きしたお手紙と一緒に郵送している。小遣い程度の管理をしている方については、ご家族が利用料の支払いの際に、残額を確認していただきサインをもらっている。家族会を年に1回(8月)開催し、その時も報告をしている。新人職員の紹介は、面会時に個別に報告している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	法人本部が中心となり、年に2回、家族アンケートを実施している。アンケートの結果のみでなく、他ホームのご家族からいただいた意見も、各ホームに知られるようになっており、もしクレームの場合は、同じことがないように職員同士で話し合いをしている。ご家族の面会時や電話時、少しでも話しやすい雰囲気を職員は心がけ、「ご意見がないかどうか」意識して声かけをしている。ご家族からは「元気になった」「家では、ホームでしているようなことはできない」などの意見をいただいている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	以前は、年に1度、同法人内での職員の異動があったが、運営者は、なるべく異動を少なくしようと考えており、ユニット毎の職員も固定している。夜勤専門の職員を配置したり、無理のない程度で休みを取れるようにもしている。職員同士、プライベートに干渉したり陰口を言わないように取り決めをしており、何かあれば会議で話し合うようにしている。管理者を中心に、職員全員が、日頃からチームワークを大切にし、馴染みの職員でケアをおこなうことができるよう努めている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人本部の運営者の方で、1人1人の職員の育成計画を立て、必要に応じた研修に参加させている。法人全体で、2ヶ月に1度、職員向けの研修会を続けており、職員も参加している。外部研修に行った職員からは、会議の中で伝達講習がなされている。ホーム内では、会議の日などに合わせてミニ勉強会をおこない、職員個々に課題を出し合い、その課題に対して職員全員で話し合う場を作っている。現場では、運営者や本部相談員、管理者などが、職員の相談役、指導にあたり、相談しやすい環境を作っている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	運営者、法人本部は、同業者との交流をおこなっていく必要性を理解しており、連絡協議会やケアマネ部会に職員を参加させている。また、研修会があれば職員に参加するよう働きかけている。19年度から、同系列ではない地域のグループホームと合同で、ミニ運動会をおこなうようになった。	○	今まで、同法人内のホーム同士の交流は多く、見学や合同研修をおこなってきたが、外部の施設、ホームとの相互訪問が十分におこなえていなかった。少しずつ、別法人の施設との交流もできてきており、今後も、近隣の施設と合同で行事を開催する予定になっている。今後も、交流していく機会を増やしていきたいと考えており、情報交換含めて、更なるネットワーク作りができていくことを期待していきたい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	本部の相談員や管理者が自宅を訪問して、入居予定の方と馴染みの関係を作るよう心がけている。また、入居前に、ご本人に何度かホームを見学していただき、生活の流れを見ていただいている。ご本人が納得して入居いただけることを大切にしている。入居後は、ご家族の了解を得て、ホームの生活に慣れるまでは、面会を多く持っていたり、ご家族から、ご本人の好みや嫌いな事などを教えていただいている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜ぶ哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は、ご利用者から、同町の習わしや郷土料理の作り方を教えていただいたり、元漁師の方からは、魚に応じたさばき方、調理法を教えていただいている。ご利用者の方が、手を合わせて「ありがとう、また明日ね。気をつけて帰ってね」と、職員にねぎらいの言葉をかけていただく場面も多い。その都度、職員は、ご利用者に支えていただいていることを痛感し、感謝の気持ちをご利用者に伝えている。ご利用者お一人お一人の喜怒哀楽を共にする中で、その人らしさを学ばせていただいている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	意思疎通が困難な方も、一緒に行動をしながら、ご本人の行動や表情などから思いを知るための努力を続けている。1日中、歩き続ける方がおられ(意思疎通は困難な方)、職員もずっと同行した。ご本人の望みが“散歩”であると捉えることができ、その後も職員は諦めず同行を続けた。その結果、現在は落ち着いた表情で、落ち着いた生活を送られている。ご家族にも、今までの生活歴や生活習慣をお聞きし、ご本人主体の暮らし方ができる取り組みを続けている。	○	介護計画の1表「生活に対する意向」のところで、ご本人の欄が無記入の方がおられる。意思疎通が困難な方も、日頃、把握しつつある“ご本人の望む暮らし”を、職員が代弁して記入してさしあげてはいかかであろうか。少しずつ、ご本人の暮らし方の希望を把握していき、それを表現してさしあげることを期待していきたい。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	介護計画の作成にあたっては、介護支援専門員を中心に作成している。あらかじめ、ご本人、ご家族の意見、希望を聞きながら、かかりつけ医に相談した結果も踏まえ職員全員の意見も聞きながら、話し合っ作成している。母体施設の理学療法士や管理栄養士にも相談している。「散歩」など地域で暮らすと言う視点が盛り込まれている方もいるが、日々のケアで実践しているものの、介護計画には反映されていない方もいる。今後も、ご本人本位の介護計画を作っていくと考えている。	○	ご利用者のお気持ちを大切に、介護計画を作成している。今後、フェイスシートで活用している物をアセスメント用紙としても活用し、より細かくご利用者の状況が把握できるようにするとともに、それに基づいて、理学療法士なども相談し、長期、短期の目標を、もう少し具体的に掲げていけるようになることを期待していきたい。また「地域で暮らす」という視点が、計画に盛り込まれている方とそうでない方がおられ、散歩、買い物など、実際のケアの中では、実践されている方も多いため、今後、意識して、計画の中に盛り込んでいかれることを期待していきたい。
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	長期計画は半年ごと、短期計画はほぼ3ヵ月ごとの見直しをおこなっている。変化が見られない場合でも、2週間に1度は職員が評価をおこない、ご本人、ご家族にも意見をうかがいながら介護計画の見直しをしている。状態が変化した場合は、随時、見直しを続け、介護計画の変更をおこなっている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	ご利用者やご家族の要望に応じて、定期的通院介助の他、必要時は随時、医療機関への相談、報告をおこなっている。入院中は、定期的にお見舞いに行き、洗濯物を受け取り、ホームで洗ってさしあげている。ご家族が入院した場合、ご本人の希望で、職員も一緒に病院に同行し、お見舞いを続けたこともある。地域の方に対しては、ご家族が長期に留守をすと言うことで、空きベッドがある時は、ショートステイの利用もおこなっている。その時々要望に応じて柔軟な対応を続けている。		
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	地元の方が多く、入居前から、かかりつけ医がホームの提携医と同じだったと言う方も多。希望時は、別のかかりつけ医に受療していただいている方もおられる。すべてのかかりつけ医とは、いつでも相談できる体制にあり、必要時は、紹介状を書いてくださるので適切な医療を受けることができている。職員が通院介助をおこなっているが、病院が希望した時は、ご家族にも同伴していただいている。通院の結果は、家族に報告している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	家族は、体調の急変時などは、「何かあったら病院で」と話される方がほとんどで、終末期についての意向は十分には聞いていない方もある。重度化した場合は、母体施設の老人保健施設で対応できることになっている。	○	今後、法人本部の方とも、もっと明確なホームとしての終末期に対する方針の話し合いを進めていきたいと考えている。医療機関との詳細な打ち合わせやホームでの対策なども必要となってくるため、法人本部への相談をおこなうとともに、今後、ご本人やご家族に対しても、終末期に対する意向を可能な範囲で確認していくことで、全体での方針の統一につながることも期待できる。話し合いの場ができていくことを期待したい。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1)一人ひとりの尊重</b>					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	一方のユニットが理念に掲げているように「・・・思いやりの心で接する」ことを意識して、朝のミーティングの際に、声かけなどを注意するようにしている。職員がご利用者の居室を入室する時は、必ず声かけをおこない、その方に応じた話し方を気をつけるとともに、ご利用者に対して否定的な言い方はしないようにしている。職員が個人情報に関する話をする時は、他に聞こえないよう配慮するとともに、情報の漏洩防止にも努めている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	朝から「買い物に連れていってくださいますか?」や「散歩に連れていってくださいますか?」など、ご希望を言うてくださる方もおられる。ご本人の体調にもよるが、予定外の外出の付き添いにも、なるべく対応するようにしている。ご本人が、日課としていることでも無理強いはいしないよう配慮し、ご希望を表していただけない方には、職員が気持ちを配慮しながら意識して声かけを行い、寝たきりや座りっぱなしにならないよう、その方が得意とする部分を活かしていただくようにしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一緒に献立を考えたり、買出し、下ごしらえ、味見、食後の片付けなど手伝っていただいている。時々外食したり、旬のものや菜園で取れたもの(ねぎ、ピーマン、ミニトマトなど)を利用し調理している。切干大根の煮物は、入居者の方々に好まれており、かんころもち等の郷土料理も取り入れている。彩りにも配慮し、同じテーブルで職員も一緒に食事をしており、楽しい会話の中で楽しい食事となるよう、毎日心がけている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	ご利用者のご希望を聞き、入浴していただいている。体調にも配慮しながら、入っている時間帯、湯温、順番などお聞きし、可能な限りご希望に沿えるようにしている。拒否の強い方には、まず足浴器を使用し、「気持ちいい」と感じていただくことから始め、「お風呂でも同じように気持ちがいいですよ」と伝えながら入浴していただくような配慮をしている。身体状況によっては、職員が3人で介助する場合もある。なるべく、ゆったり入っていただく取り組みを続けている。		
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	入居者の方々に、長年培ってきたお力を発揮していただけるよう、食後の茶碗拭きや洗濯物たたみをしていただくなど日常生活の中で役割を持っていただくとともに、昔の生活で苦労したことや心に残っていることを話していただいている。楽しみや気晴らしとしては、職員とのおしゃべり、散歩やドライブ、買い物、鉢物の世話をすることもおられる。お一人お一人のお力を発揮して、活躍の場をより多く作れるよう配慮している。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	ご利用者が、入居する前から良く行かれていた場所の把握に努めている。ご利用者を、スター、診療所や、以前住んでいた地域にお連れすると、地元の方々と会うことができ、会話を楽しまれている。ご本人のご希望の場所にお連れするようにしているが、ドライブをする時には、地域の方々に会うことができる場所に行くよう心がけている。また、ホームの庭に出ると、海が見え、山も見える。隣のユニットの方々とお会いすることもできるため、ホームの庭に出るだけでも気分転換になっている。	○	車いすの方も増えており、以前に比べて外出の回数が減ってきている。以前は、温泉にお連れすることもあったが、ここ1年は行けていない。今後は、もっと外出の回数を増やしていくことで、楽しみを作っていきたいと考えている。ご利用者にとっても、楽しみとともに、生活の目標にもつながると思われ、今後、季節も良くなることから楽しい外出につながっていくことを期待したい。
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関は朝6時から夜21時まで開放されており鍵はかけておらず、ご利用者の方には自由に出入りしていただいている。職員同士で声を掛け合い同敷地内のホームとも協力し、お一人お一人の行動の確認、見守りをおこなうとともに、近所の方にも見守りや必要時の連絡のお願いをしている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	同敷地内にあるホーム2棟合同で、火災訓練をおこなっている。年2回実施し、全職員、ご利用者、消防署の方が参加し、火災時と合わせて、夜間を設定しての訓練もおこなっている。運営推進会議を通して、地域の方にも避難・誘導の協力をお願いしている。	○	現在、災害のための備品は用意されていない。災害に備えて、何をどのくらい準備しておけばよいか、法人本部の方も含めて検討していかれることを期待したい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	19年度の外部評価以降、月に1回、同法人の管理栄養士に献立をチェックしてもらい助言をもらっている。また入居時にも、栄養面のアドバイスを個別にいただいている。ご利用者の好みも把握し、味付けを変えるなど個別対応をするとともに、食事量、水飲量ともに把握し、記録に残している。毎月、体重測定をおこない、定期検診のコメントも参考にしながら、お一人お一人の食事量を考慮し、食事摂取量が少ない時には、医療機関に相談し、高カロリーのジュースを処方していただいたこともある。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関や食卓に、季節の花や木の実を飾り季節感を楽しめる工夫をしている。日差しに配慮したカーテンやよしずを使用し、リビングには、ソファやテレビを置いて居心地の良い空間にしている。ホーム全体の掃除が行き届いており、ご家族からも「気持ちがいい」「掃除が行き届いている」などの感想をいただいている。また、ご家族の方が、ご利用者の居室の表札を作ってきてくださる方もいて、ご家族も一緒に、居心地の良い共有空間作りに協力いただいている。ホームのすぐ近くに海があり、風通しが良く、換気も十分におこなっている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご本人が馴染みのものに囲まれるよう、ご家族とも相談しながら、天皇ご一家のカレンダー、衣装ケース、写真、位牌、ぬいぐるみ、アルバムなど持ち込んでいただいている。ベッドのシーツは毎朝しわ伸ばしされており清潔感にあふれている。なるべく居室にはお花を飾るようにしているが、居室のレイアウトは、ご本人やご家族に相談しながらおこなっている。		